

発行責任者 都立向丘高等学校同窓会  
 会長 小川力洋  
 編集 会報委員会  
 事務局 〒113-0023  
 東京都文京区向丘1-11-18 向丘高校内  
 TEL 3811-2022  
 FAX 3812-4055

上野不忍池辨天堂と西郷さん



切り絵作家 稲葉祐吉 作



都立向丘高等学校  
 同窓会 やよい

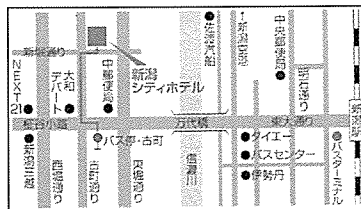
## 同窓会活動のご案内 (やよい会)

### ■平成18年4月23日(日)

- ☆総会 受付13:00  
 開始13:30~14:15  
 (会務・会計の報告・審議)
- ☆記念演奏会 14:30~15:30  
 出演: 母校吹奏楽部員  
 指揮: 原田 亮先生  
 (18年1月 アンサンブル  
 〈8名編成〉新大会の部で  
 金賞を受賞した)
- ☆懇親会 16:00~18:00  
 新成人祝う会・対象者無  
 料招待 卒業時の級幹事  
 がおまとめの上人数を会  
 長までお知らせ下さい  
 アトラクション(フォークソング部OB  
 演奏、抽選会等)  
 会員参加費: ¥3,000(但しH17・18年卒  
 業生は無料です。各学級幹  
 事がおまとめの上、会長  
 まで人数をお申し込み下  
 さい)  
 申込方法: 4月10日(月)までに同封  
 の用紙にてお振込下さい。  
 場所: すべて母校6階多目的ホール

### ■平成18年5月27日(土)

- ☆やよい会新潟大会  
 式典 受付12:00 開始12:30  
 ☆懇親会 13:00~15:00  
 参加費 ¥5,000(但しH17・18年卒業  
 生は¥2,500)  
 会場 新潟市古町通8番町1430番地  
**新潟シティホテル**  
 (新潟駅から車で5分)  
 TEL 025-224-4121  
 FAX 025-223-2969



- 申込締切 5月20日(土)までに同封の  
 振替用紙で「その他の欄」  
 に新潟大会費とお書き込  
 みの上お振込下さい。
- ◇宿泊ご希望者は  
 ¥6,000(同ホテルシングル・朝食付)  
 にて4月末日迄予約受け付けます。上記  
 参加費とともに振込下さい。

### ■平成18年9月24日(日)

- ☆学校訪問(ホームカミング会)  
 セミナー 無料 16:00~17:00  
 財団法人日本原子力文化指定財団  
 科学文化部派遣講師予定  
 テーマ 放射線利用  
 切らずに治すガン治療
- ☆懇親会 17:00~18:30  
 参加費 ¥2,000(会長宛、お名前、人  
 数等要予約・当日払可)  
 場所 母校B棟4階視聴覚室

※母校向陵祭(文化祭)が9月23日・24  
 日(PM3:00終了)開催されます。  
 ご参観かたがたご参加下さい。

### 総合問い合わせ先

〒114-0012  
 東京都北区田端新町1-27-11  
 東京都立向丘高等学校同窓会  
 会長 小川 力洋  
 TEL 3893-9792(代)  
 FAX 3893-9793  
 E-mail omurogaw@kitanet.ne.jp  
 omurogaw@dk.pdx.ne.jp

# 《御挨拶》

## 今後の同窓会のあり方進め方 「新成人を祝う会」 母校で開催



同窓会長

小川 力洋

本来同窓会は卒業生全体が一体となって、日頃の縦社会から解放され、利害関係のない人間関係に浸れ、あの日に帰り感動の再開となるものです。一度参加された方はこんなにも楽しいものと喜悅して下さいっております。現在、日本においては少子化に伴い段々と減少するであろう新会員や若年層をいかに迎入れられるか、という体質改善を考えなければならぬでしょう。従来型の運営を続けていってはいかに会員の皆様から承認、応援、委任されているとはいえず退化の一途となってしまう様に思われます。

そこでまず、新成人をターゲットとして、多分同期生となりましよう年代を、総会時の懇親会を「新成人祝う会」と銘打って、大勢が気楽に楽しめることを企画いたしました。(該当年者は参加費無料)

卒業時に各クラスの幹事を選出頂いておりますが、その方々が中心に人集めやら進行を考えて下さることを願っています。

いずれ節目卒業後10、20、30、40、50年、60年以上とかを「記念年祝う会」なるものへと発展できると良いと考えております。

少額費用で長時間、人生をゆつたりと語り合おうではありませんか。各対象学年毎の幹事さんを募集したいと思っております。お申出をお待ちしております。

## 理性を育てる

校長



石井 隆夫

同窓会の皆様には、母校、向丘高校の教育活動に對しまして様々な面からご理解とご協力を賜りまして誠にありがとうございます。昨年、高校生による「ええっ」「なぜ」と、言葉に詰まるような悲惨な事件が続きました。なぜ、今このようなことが起こるようになったのでしょうか、問題を起した子の多くは普通の感じの子であったというのがほとんどの場合の關係者の言葉です。

先日ある会で臨床心理士のお話を聞きましたが、その中で「現在の子どもはブレッキのかららない子が多くすぐ行動を起こす。これは耐性を身につける訓練が出来ていないからだ。」というのがありました。この耐性を身につけることを私は「我慢する心」であると理解します。良し悪しの判断などしないで注意され「キレタ」ので考えもなしにすぐに行動に移してしまう、注意を受けたとたん大声で怒鳴りだす、なぜ注意を受けたのか考えることなく反発する。これらも耐性のなさゆえだと思えます。これらを受けて私は生徒に自己を理性でコントロールする力を養うことが大切だと話しました。それと共に学校でも家庭でも社会でも今一番欠けている事は、他者を思いやる心ではないかと考えています。

思いやりの心は他人の心の痛みがわかる、他人の心の悲しみを我がことのように受け止めることが出来る、この二点が大切であると常に感じています。

さて、最近卒業生に会うと必ず「学校は今どうですか、あのころが一番よかった、ずいぶん先生方に迷惑をかけたけど、学校ってよいものですね、年月が経つにつれて益々そう

思うのです。」という言葉が返ってきます。後になつてあの学校で学んでよかった、あの先生に出会えてよかったと思われることは非常にうれしいことです。それこそ個性ある学校だと思えます。幸い向丘高校では、先生方は持ち味や個性を生かし生き生きとした授業を展開し、生徒たちの心に何か残してあげたいと毎日の授業を更に工夫をして取り組んでおります。

これらはすべて、先輩の皆様が築いてこられました伝統、文化、自由の中にも規律のある校風が受け継がれているものだと思われ感謝申し上げます。

今後とも同窓会の皆様には、学校運営に資する様々なご意見、ご支援をお願いし、また同窓会の益々のご発展を祈念いたしまして挨拶に代えさせていただきます。

## 学校だより

副校長



飯田 幸男

学校アンケートに見る向丘高校生  
本校では生徒や保護者の皆さんの意見を学校運営に反映させるため年一回、学校生活に関するアンケートを実施しています。昨年度に実施したアンケート結果からいくつかの項目をあげると次のようになります。パーセンは問いに対して「あてはまる、ややあてはまる」と肯定的な回答をした割合を示します。

- 一、この学校に入学してよかった。(七十八%)
  - 二、学校生活は学習面で充実している。(六十六%)
  - 三、文化祭は充実している。(七十七%)
  - 四、部活動に積極的に取り組んでいる生徒が多い。(四十一%)
- 保護者対象
- 一、子どもを向丘高校に入れてよかったと思っている。(八十五%)
  - 二、子どもは学校が楽しいと言っている。

三、子どもの生活は学習面を中心に充実している。(五十%)

四、子どもの生活は部活動などを中心に充実している。(四十二%)

学校生活全般に對する満足度は、生徒も保護者も八十%に近く、行事に對しても生徒の満足度は八十%に近い数値となっております。しかし、学習面に對しては、保護者の半数が、十分とは考えていないという結果になっております。生徒に對して「学ぶことの意義」を実感させて主体的に学習に取り組ませることが大きな課題となっております。また、部活動に對する生徒の参加状況も全体を見るとまだまだという観があります。しかし、いくつかの部では関東大会や都大会に出場、都のコンクールで入賞するなど、その成果が現れつつあります。友達との人間関係を育て、社会生活に欠かせない協調性や忍耐力を養うことができる部活動の活性化に向け、これからも取り組んでまいります。

## 二年生でインターンシップを実施

本校の生徒の卒業時の進路決定率はここ三年間を見ると七十三、二%（〇四年）七十四、八%（〇五年）七十七、九%（〇六年）と年々上昇しています。しかし、自分なりの進路目標を達成して卒業するのは難しいのが現実です。自分の進みたい進路が明確でないために授業に對する姿勢もいまひとつ集中力に欠ける傾向が見られます。こうした状況も踏まえ、将来に向けた進路意識を高めるためキャリア教育の一環として今年度より二年生でインターンシップ（職業体験）を実施することになりました。受け入れ先は証券会社、大学の付属病院、保育園等ですが、生徒の希望によって受け入れていただくことになっております。働くことの大変さばかりでなく、働くことで得られる充実感なども体験できればと願っています。今年度はハローワークの協力を得ながら受け入れ先の紹介を受け準備を進めていくところですが、三月末に実施予定ですが今後、規模を拡大するにあたり受け入れ等と同窓生の皆様にもご協力いただきたくもあらうかと思っております。その節は宜しくお願いいたします。

# 同窓会活動報告

## 全国大会のお誘い 年に一度は開催の励行

卒業生一七、一三二名がおいでの中で母校に関心を持たない人は少なくないと思います。何かにつけ、学生時代の友人なりが、想い浮べられ、去来することがあります。そんな意味で学校だより等がある会報は会員相互の連携を保つものと考えております。前会報(十五号)でもお伝えしましたが、年一度の総会に対し極少人数の参加者となっております。否定されるよりおまかせはありたいのですが、臆抜けとなつてしまひそうです。又、近隣でないので参加出来ない会員の方々に少しでも近づき、近づいて欲しいという願望から年一度は東京を離れた会員が多々おいでの場所です。世の中、縦社会の中、日々生き抜いているものですが、それに解放され利害関係なしの人間関係に浸ろうとするものです。時にはビジネスチャンスや好人脈が生まれるかもしれません。ご近隣の皆様方、是非全国大会へのご参加をお願い申し上げます。(役員一同)

## 愛知万博見てある記

「連泊で作戦成功」



S 31年卒  
川端 春生  
(旧姓三橋)

五月二十八日(土)、名古屋祭で賑わう街中の中国大飯店において、やよい会中京大会が行われた。和やかなうちに会が終り、明日の万博見学希望者一行は、散歩がてらに夕暮

れ時の名古屋城をひとまわりして、その日の宿「サン・ホテル」へむかった。

翌日、五時半に起床、朝食を済ませ名古屋駅へ。バスターミナルから直通バスで万博会場へむかう。八時五十分、東ゲートより入場。半分駆け足のような早足で日本企業グループエリアへ直行するが、係員に「今日の入場は無理です」といわれ、あきらめてマンモス館へ急行した。冷凍マンモスの頭は、形がはっきりしていて見事だった。その後、IMTS(全自動電動自動車)に乗り、東南アジアとかヨーロッパなどのエリアを見学し、キッコロゴンドラに乗って出口へむかい、万博会場駅を後にした。一行は夜の新鮮線で東京へ帰る。

翌々日、昨日得た情報を基に、地下鉄とリニアモーターカー(リニモ)で会場へ行き、七時半に北ゲートに並ぶ。作戦が成功し、トヨタ館の第一回目のロボットショーを見ることのできた。評判以上に素晴らしいショーだった。イタリア館の古代ギリシャ像「踊るサテュロス」、ロシア館の実物大のマンモスなどを見学し、会場を後にした。並びながら、見学しながら、バスを買って五十回も来ている人、パソコンで予約した人、計画的に何回も見に来ている人などと話ができ、楽しい万博見学だった。

昼食のインド館のカレーライス、夕食の名古屋名物・味噌カツが美味しかった。リニモは騒音が少ないので、環境に配慮した乗り物として期待できそう。大阪万博のような感動はなかったが、いろいろな国々との距離が一層近くなったという感じを受けたイベントだった。

## 中京大会から

### 愛・地球博を楽しむ

世界地図の無恥さを痛感!!



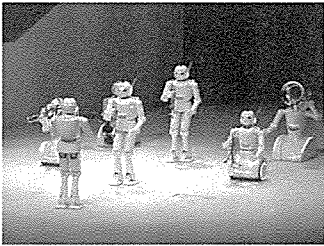
S 41年卒  
尾道 郁代  
(旧姓大橋)



五月二十八日土曜日、やよい会中京大会に向う。東京から小川会長はじめ六名で名古屋へ出発。十一時位に到着。名古屋の町を見たので、会場の栄町迄歩く。道路の広いこと。車道は三車線・歩道も四五人で並んで歩いてても他の人が通れるくらい広々としていた。いつも東京の道幅を狭く感じていたのでよけい広く感じた。会場へついて大阪から見えた西日本地区飯事の高尾和子さんと合流し、七名で中国大飯店で懇親会。なごやかに二時間が過ぎた。念撮影後名古屋の町へ。丁度、名古屋祭りのパレードに遭遇。しばらく見物してから宿泊先のホテルに向う。

翌日は六時起きで朝食をとり、愛・地球博へ向う。会場迄名古屋駅から大型バスで移動入場する迄も何列にも並び、手荷物を調べられ、やっと中へ入ってみるとどのパビリオンも行列で比較的すいているアジア館やヨーロッパ館に次々と入る。国名も知らないような所がいくつもあり世界地図の無恥さ加減を痛感する。どの国の人も親しげに話をしてくれたり、あちらこちらで楽しませてくれるパフォーマンス等。会場内を移動する乗り物もたくさんある。自動運転の大型低公害バスやグローバル・トラムや人力車などが利用できる。暗くなる迄見て回り、帰りはキッコロゴ

## ロボットたちが奏でる 未来技術への序奏



“コンチェロ”君達のショー

## 万博会場は

### 前身 愛知少年公園

各国の特徴文化に納得



S 34年卒  
石山彼早子  
(旧姓佐伯)

私の娘が配偶者の転勤で名古屋に移住して、十二年になります。長久手に愛知少年公園があり、県民の憩いの場として、広い敷地の中でインドア・アウトドアの両面を適度に配置し、安い入場料で一日楽しく過ごせるのが何よりでした。ところがこの公園が地球博の会場に予定され、今迄のような利用ができなくなると聞かれ、本当にがっかりでした。

その地球博へ思いがけず同窓会が名古屋で開催されるのに行けたことは幸せでした。会場に行く道路もすっかり整備され、以前のおもかげは全くなく別の世界がそこにありました。改めて会場の広さとそれぞれの国の個性あふれた眺めに驚きました。

数多いパビリオンも限られた時間内で廻るには、効率よく選ばないと時間が無駄になるので待ち時間が短いところということでアジア館を選びました。資金の豊かな国とは違い豪華な展示品もありませんでしたが、自国の文化を盛り込んで特徴を生かし、納得できるところも多くありました。

入場の際のチェックは感じよくなかったし時間はかかるし、ゲートを通り過ぎた途端、走り出す人がいたりするので気が焦りました。人気のあるパビリオンは待ち時間が四〜五時間かゝると云われ断念せざるを得ませんでした。(日本館もその中に入っていました)でも日本で開催される万博は当分ないと云われてますし、何はともあれ貴重な体験が多量なりとも出来たことは幸せでした。

### セミナーでの学び 些細な感動をも五七五へ



S 32年卒  
櫻井 弘清

平成17年度のセミナーは「俳句は頭の活性化」をテーマに取り上げた。講師は「遠矢俳句会」主宰、檜 紀代氏。実はS31年卒の佐藤令子さん(旧姓安藤)の俳号である。現在は俳人協会幹事、NHK学園講師、警視庁警察学校俳句講師その他講座を多数持ち、俳句総合雑誌への執筆、添削講座と多方面の活躍に加え、ご自分の句集出版も8冊に及ぶとか。

高齢化と呼ばれて久しいが、自分たちも当てはまる年齢に差し掛かった。定年を迎え自由になった時間をただぼんやりと過ごすのではなく、常に脳に刺激を与えていけば老化も防げる。俳句はその気になればすぐにも始められる。大袈裟な道具も要らない。季節の動きや日常の些細なことでも感動があればとりあえず五七五に纏めてみる。その日の出来事を俳句に託しておけば長続きしない日記を書くより気楽である。などなど。門外漢の自分もちよつとやってみようかなどと思わせる講義だった。

配られた資料にはみたこともないような文字が並んでいた。みな季語なのだそうである。一部を書き出すが、あなたはそのくらいご存知でしょうか。

《春の部》・ 露・ 陽炎・ 松明・ 蒲公英  
《夏の間》・ 黒南風・ 翡翠・ 蚯蚓・ 簞  
《秋の間》・ 新走り・ 龍馬・ 蝨・ 蟻  
《冬の間》・ 雲・ 木菟・ 石蕁・ 河豚

ほとんどが普段は使わない文字ばかり並び、読めないものも多いので少々ためてしまったが、先生はもう40年も携わっていらつしやる



と聞き、すこしほっとした。

車前草の花が土下座の奥の院 檜 紀代 吟

この句は平成17年9月13日の東京新聞コラムに載った句である。ちなみに車前草とはおぼこのことだそうである。短いものに充分皮肉のこもった句のように感じられた。極めればこういうふうにもなるらしい。みなさんも俳句、やってみませんか？

### 向陵祭参観記



S 31年卒  
三田 昌男

今年もホームカミング会を兼ねて、生徒達の一生懸命な活動を拝見しました。その中でも二点が特に印象的でした。

①吹奏楽のすばらしかった事、原田先生指導のもと多種多様の曲をマスターした生徒諸君の努力の賜物、明るく若い力の演奏は私達の心を躍動させてくれました。  
②小倉百人一首の詩の解説と説明、作者名及びその人の時代の背景や詩の意味などよく調べて展示されていました。

以前、高校時代の正月にカルタ取りをした事を思い起こしました。上の句を読んで下の句が、速く取れるように暗記したものでした。友人の家ではおばあさんが読み手で家族全員でカルタ取りを楽しみ、真剣にカルタをさがす光景が見られました。今の時代はこの様な家族的の遊びが出来ないのがさびしいと感じるものです。

### 向陵祭参加

#### ロシア写真展に添えて



S 31年卒  
山本 越子  
(旧姓 福永)

昭和三十年代に若者だった人間にとって「ロシア」は懐かしいところである。もちろん正式な国名はソヴィエト連邦だったが、ロシア文字、ロシア民謡がはやってきた。カラオケなんぞなかったころ、「うたごえ喫茶」で大声で歌ってストレス解消、情熱の発散をしたものだ。放吟したのはロシア民謡である。

ロシアへ旅行をしたのは2003年、最初の訪問地サンクトペテルスブルグは建都300年祭だった。ピョートル大帝がヨーロッパに憧れ、築き上げた美しい都である。1703年に即位した若き皇帝は宮廷内の陰謀、迷信、反乱などに縛られたモスクワを脱し、自らの描く国の未来を見据えて首都をここに決めた。

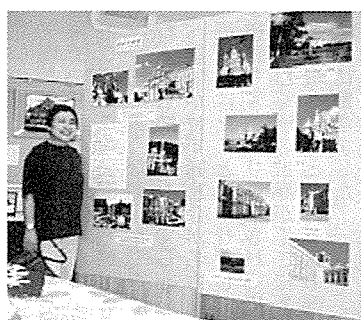
1762年、エカテリーナが即位し、この都に華を咲かせた。彼女は類稀な指導力でロマノフ王朝を絶頂期に導く。富を手にした彼女は膨大な美術品のコレクションをする。それらは王宮のあったエルミタージュに残され、現在はその建物と共に世界遺産に指定されている。

ペレストロイカから10年を過ぎ、自由経済のロシアは活気に満ちていた。が、実際は賛否両論。サンクトペテルスブルグとモスクワの若い男性ガイドからは正反対の話を書く。バスや汽車で移動中、ロシアの森の多さには驚いた。勿論農業国でもある。

ロシア正教の教会や寺院は想像も付かないほど時間と手間をかけて出来上がっている。共産主義の時代、宗教は禁じられていた。それらは一ツ場所に集められ保存された。現在は野外建物博物館として世界遺産になっている。地名はスズダリ、信仰の対象として作られた美しい建物が本来の使命を果たすことなく広い原野に点在している。贅沢な風景である。

モスクワはクレムリンのあるところ、赤の広場は共産党の色ゆえかと思っていたら、赤は神聖な色として扱われていたらしい。この武器庫に、ロシア革命時に散逸したイースターエッグがいよつつか展示してあった。モスクワのジャストマリッジは華やかな車に乗り、市内の各スポットで記念撮影をする。必ず寄る場所は無名戦士の墓。このときばかりは厳めしい衛兵もロープをはずし二人をなかに通す。ニューカッブルは墓地に花束を捧げ祈る。

### 向陵祭 同窓会コーナー展示前



### 活動だより

#### 柳田國男の絵葉書

#### 家族にあてた二七〇通編纂から



S 36年卒  
田中 正明

昨年六月、『柳田國男の絵葉書―家族に宛てた二七〇通―』(晶文社)を出版した。日本民俗学を樹立した柳田國男が、旅(旅行)の先

々から家族へ書き送った絵葉書を写真撮りし、判読文と備考、全体を通した解説を付したB五版三三〇頁余りの本である。

明治・大正・昭和(戦前・戦中・戦後)にわたった内訳は、国内の旅行先からのものが一二六通、海外からが四四通、柳田の旅の回数も多く、国内旅行だけでも一五〇回を超えていく。このため実数はこの何倍にも及ぶと思われるが、向後本書が柳田と日本民俗学に関心を寄せる方々にとって共通の財産となることを願っている。

振り返ると、柳田家に書簡の存在をお尋ねさせていたとき、ご理解のもと本書の刊行を志向してからおおよそ三年。この間一葉一葉を時系列に整理し、判読し、綴られている事柄を理解することに、時間を費やし地道な作業を続けた。実際容易でなかったが、この時間は柳田の聲に接しあるいは心模様に触れ得るよう思われて楽しかった。

今回得た事柄で、これまで伝えられることが少なかったことを二点挙げてみよう。一つはすべての書簡に妻に対するいたわり、子どもに向けた優しい眼差し、養父母に対する気遣い、自然への憧憬など、私人としての柳田の心様が横溢していること。二つは国際連盟委任統治委員会の委員として大正時代に欧州に赴いたが、欧州でも旅行を重ね博物館・美術館・教会堂などを訪れて異質な文化に触れ、併せて第一次世界大戦直後の惨状を目撃していることである。こうした見聞はその後に構築することとなった学問と、啓蒙思想家柳田の誕生に大きく関わっているのではないだろうか。試みにウキーンから六歳の長男に宛てた、一九二一年八月十一日付の一葉を紹介したい。絵柄は人形を取り上げ妹を泣かせている兄を描いたもので、「今晚二十一時五十分の夜行列車でブライグに行く。この辺にはこんなおとうさんと、たまにはある。ウキーンにておとうさん」と、一日の報告と婉曲に論じた

文音が添えられているのである。

柳田國男の絵葉書  
長男宛に大正10年8月11日  
ウキーンから投函



### ひろば

#### 巢鴨の歴史探訪



S 31年卒

三谷 一郎

巢鴨が「おばあちゃん原宿」と呼ばれて久しい。毎月四の付く日、とげ抜き地蔵の縁日があり、自分や家族の体の悪い部分を洗うと快癒するという民間信仰が根にある。生家が近かったので、昔はよく歩いた。

地元商店街が建立した石碑には、中仙道沿いに徳川慶喜が住んでいたとか。明治維新後移封した静岡に鉄道が開通。騒音を嫌い巢鴨に移住したが、山手線開通に伴い転居。故郷水戸に因み梅林に囲まれていたらしいが今は面影もない。

地蔵通り入口の真性寺の大きな地蔵像は江戸六地蔵の一つとして高名。中仙道を行く昔の旅人は心穏だことだろう。

「とげ抜き地蔵」がいらっしやるのは高岩寺。境内にある洗い観音は2代目である。初代は束子で洗えず、すっかり滑らかになつてしまった。現存のお像はタオルで洗っている。相変わらず行列は長い。寺域にカレールどんの「古奈屋」や甘味処「甘露七福神」などがある。

商店街は衣服や食べ物屋が多いが、創作ちりめんのお店がある。ちりめん小物は女性客の心をくすぐるのだろう。嬉々として買い物をする人々で溢れていた。

「ちはら町並み美術館」という案内板につられ、路地に入る。白いタイル張りの小さい建物があった。失われつつある日本の古い町並みを極細ペンで描き、淡い水彩絵の具で着色した絵が並んでいる。懐かしい風景を大切に思い、描き残す人がいることに改めて共鳴と感謝の言葉を伝えたいと思った。

散歩の足は庚申塚から都電荒川線沿いに中

仙道を越える。ここらは寺町で、著名な名人が時空を越え並んで眠っている。善養寺の本堂に高さ三メートルに及ぶ木造の閻魔坐像がある。地獄行きを避ける為、丁寧に参拝した。墓地には江戸中期の尾形乾山と近代の原子物理学者、湯浅洋子の墓が隣あつていて。本妙寺にはあの北町奉行、遠山金四郎と剣豪、千葉周作の墓も並んでいる。染井霊園の隣、慈眼寺では芥川龍之介、司馬江漢、谷崎潤一郎らの墓を発見。古い記憶からそれぞれを思い起こし、その足跡を偲んだ。巢鴨は奥が深いと実感し帰路についた。

### 時代の背景(その二) 当時の世相など



S 31年卒

川端 春生  
(旧姓三橋)

高校時代の三年間の主な出来事について振り返ってみることにしました。

(昭和二十八年) 内閣総理大臣・吉田茂氏が、二月二十八日の衆議院予算委員会で、社会党議員・西村栄一氏との質疑応答中、「パカヤロー」と暴言を吐いたことに端を発し、国会の大問題となった。三月十四日に「内閣不信任案」が可決された。これによって衆議院は解散した。有名な「パカヤロー解散」である。皇太子・明仁親王(現天皇陛下)が、六月二日に行われるエリザベス女王二世の戴冠式に出席のためイギリスのロンドンを訪問。七月二十七日、朝鮮戦争休戦協定が調印された。八月二十八日、日本テレビが民放テレビ局の第一号として放映を開始した。八月、わが国初の噴流式電気洗濯機(三洋電機)が発売された。定価二万五千円。十一月、ディオールのファッションショーからショートスカートの流行した。十二月三十一日、NHK紅白歌合戦を日劇ではじめて公開放送を始めた。(昭和二十九年) 二月、汚職にまつわる

造船疑獄が発覚し国会で問題になった。三月一日、ビキニ環礁付近の海上でマグロ漁業中の静岡県焼津の第五福竜丸が、米国の水爆実験により被爆した。四月二十一日、自由党の国会議員に対し、逮捕許諾請求が検察庁より出されたが、吉田茂首相は、犬養健法相に「指揮権発動」を指示し、これを拒否した。六月四日、近江絹糸は労働組合を結成し、同時に「人権擁護」を中心とする権利を要求したが、会社側がこれを拒否したため組合は無期限ストに入った。九月十六日、中労委の斡旋案を双方が受諾し、百日間の争議は解決した。九月二十六日、青函連絡船洞爺丸(四、三三七)が強風のため函館港内で座礁転覆し、死者千二百人という大惨事が起きた。十二月七日、吉田茂内閣総辞職。同日、第一次鳩山内閣成立(首相・鳩山一郎氏)。

(昭和三十年) 二月二十七日、総選挙。民主百八十五、自由百十三、左社八十九、右社六十六など。三月十九日、第二次鳩山一郎内閣成立。五月十一日、四国・高松港沖で国鉄連絡船紫雲丸(一、四八〇七)が貨物船と衝突、数分後に沈没した。死者百六十九人。八月六日、原爆投下十周年を期に、第一回原水爆禁止世界大会が広島で開かれた。八月、森永砒素ミルク事件起こる。十月十三日、社会党統一大会が開催され、左右社会党は「日本社会党」に統一された。十一月十五日、民主党和自由党が解散し、新しく「自由民主党」を結成した。衆参両院合わせて四百六十六人と保守大勢力となった。初代総裁には、鳩山一郎氏が公選された。十二月、輸出船の大ブームにより神武景気となる。

いろいろ調べながら、こんな時代に生きていたんだと感慨深かった。選んだ出来事などは、多分にひとりよがりなところがあるけれどご容赦願います。



当時の吉田茂首相の写真

生き物の楽園

### ガラパゴス諸島訪問記



S 32年卒  
佐藤 元是

昨2005年4月初旬、世界一周クルーズ10周年の飛鳥に乗船した。22ヶ国・32港を巡る、丁度100日間の旅だった。その途中、西廻りだったからその旅も終章を迎えつつある6月下旬に、地球の秘境と思われつつある進化論の、また世界遺産のガラパゴス諸島を訪ねるツアーに参加した。

ガラパゴスでは、観光船「ガラパゴス・レジェンド号」(総トン数・2750t、乗船定数・110名)に4泊し、各島にある固有のウミイグアナ、リクイグアナ、アシカ、オットセイ、コバネウ、ペンギン、ペリカン等々のコロニーを観た。ゾウガメは保護地区でのみ観察できたが、純粋な野生種が生息しているかどうかは知り得なかった。小鳥や植物にも数多くの固有種があるが、それぞれの名前などは退化する自分の頭にはとても定着させられなかった。地質学的特徴についても多くを学んだが、それらも同様だった。しかしリクイグアナによる食害を逃れるため、幹が樹木化したウチワサボテンだけは、進化の1代表として記憶に残った。

毎日の午前と午後の2回にわたる観光は、救命胴衣を着けてレジェンド号からゴムボートに乗り移り目的地に上陸することになったが、その方法には2通りがあった。一方はドレイ・ランディングで、岩場や、石を積んで表面を薄いコンクリートで覆っただけの簡単で小さな棧橋に上陸することである。他方は砂浜に上陸する時のウエット・ランディングで、膝程度までが海水で濡れた。

幅の狭いトレイルを歩きながらの、ナチュラリスト・ガイドによるスペイン語、或いは英語(時には日本語を交えた)の説明を女性

日本人ガイドが通訳してくれた。「動物達には、2m以内に近づかないように」との注意があったが、動物がトレイルを塞いでいたり、棧橋を占領していたりしては適わない。日向ぼっこに夢中で、少しも動こうとしない無数のウミイグアナがたむろしている。コバネウの母親は子育てに余念がなく、餌を口移ししている。数頭のアシカが並んで、岩場や砂浜に寝そべっている。子供に哺乳している個体もある。ペリカンのコロニーでは、あちらこちらでつがいがい巣を守っている。頭をかすめるように、大きなペリカンが飛んでいった。観察した動物の殆どは、人間が近づいても警戒せず全く無視したままでいる。目の前で抱卵しているペリカンさえも、である。

反応したのは、溶岩の岩場を這い回っている。甲羅の径が15〜20cmのベニイワガニと、砂浜に穴を掘って巣にしている径は5〜10cmのユレイガニだけだった。ユレイガニの名の由来は、逃げ足が速く、直ぐに姿を隠してしまうことにあるのかも知れない。シヌノケリングのプログラムもあつたので、海に入ってみた。赤道直下にも関わらず海水は冷たく感じられたが、近くの寒流によるのだそう。胸あたりの深さで、アシカが横を泳いでいく。また、黒い縦縞の入った体長50cm程の黄色い魚が興味深そうに両足にまつわりついてくる。姿形は鯉に似ていたが、ナポレオン・フィッシュのように張り出した額と二つに割れた、周りは淡い青紫の長い尾びれを持っていた。入手した簡単な魚類のカタログにはその名を見つけたことができず、帰国後の課題となった。別の場所では、垂直に下りた岸壁の直ぐ傾で、捕食者に追われたのであろう小魚の群れが大きな山となって空中に飛び跳ねた。グンカンドリはフィッシュングのため、空中で一瞬停止したあと、殆ど垂直ダイビングする。

ガラパゴス諸島には、外来種による汚染という問題があると言う。そのため、「ガラパゴス特別検疫制度」があり、荷物検査などが厳重に行われている。また、観光ルールには「植物・動物はもとより、石・岩とも言えども種の変化を妨げないために、そのままの状態

にしておかなければならない」ことがある。更に、「水以外の食物を持ち込んではいけません」でもある。隔絶されたガラパゴス諸島ではあつても、地球上にある限り、問題になっている温暖化や環境汚染の影響も免れないだろう。望めないこともかも知れないが、「いつまでも、生き物の楽園たれ」と願うばかりである。

### 「クロスカントリイで表彰された嬉しさ」

「走る」から「歩く」へ



S 46年卒  
山 幸子

私の高校時代のこと、毎年行われたクロスカントリイが、まず思い浮かぶ。運動神経のあまりいい方ではないと自覚し、中学まで体育が大の苦手科目だった私が、高校に入ると、なぜかさほど嫌ではなくなった。そして、一年秋のクロスカントリイに備えた学校回りのマラソン練習・・・これがとても心地よくなった。

それまでマラソンの経験などまったく無く、なんの予備知識もなかったが、体育の授業が待ち遠しくまでになった。そして迎えたクロスカントリイ当日・・・練習時よりは距離も長く、アップダウンもあり、決して楽ではなかったが、いつのまにか必死に走っている自分がいた。そして、ラストスパートもうまく行き、女子三年生の中で六位以内に入り表彰状を手にした時の喜び・・・これはひとしおだった。

それまで「人より秀でて表彰される」という経験などなかった私にとっては、かなり嬉しかったのだと思う。それが良いきっかけになって、お蔭で三年間クロスカントリイで表彰されることが出来た。(その翌年、六義園

周りのマラソン大会第一回があり、又も表彰状を手にできた、と記憶している。)これはかなり自分の自信に繋がったと思う。(それからすつかり「走る」事から遠ざかっていた。)それから〇〇年が経ち、最近では体力の衰えを感じ始めてきた。今では走れなくなった。気持ちがあつても足がついていかない、足が継いでしまうようになったので、「走る」ではなく「歩く」に切り替えた。

この「歩く」(ウォーキング)は、かなり快適だ。トレッキングシューズにリュック、といういでたちで、あちこちへ颯爽と出かける。平日は五時起きから川崎まで通勤し、帰宅もそう早くはないから、週末はのんびりしたいところだが、その気持ちを少し振り切って、頑張ろうと出かける。ウォーキングを始めてから、出不精ではなくなった。

いつも通っている道に咲いている花、回りの景色、それまでは何の気にも留めなかったものが、心に響くようになったから不思議である。歩きながら、「この花はなんという花だろう?この木は?」と気になり、帰宅してから調べるのも楽しみにした。通勤途上でも、川崎駅から会社への道端にある桜の花を携帯に撮って待ち受けにしたり、どくだみの白い花がとても愛らしく好きになったり、ツツジの咲く季節には色とりどりの花が咲き誇り、どれが綺麗?と思ってみたり・・・又、紅葉の季節には舞い降りてきた桜の葉を会社に持って行き、葉にしてみたり無味乾燥になりがち日々の生活に潤いを与えてくれている。

これがもう少しすすんで、「句を詠む」ようになれば最高かなと思うが、未だそこまでの道のりは遠い。日帰りで、御嶽、下田、塩山まで行ったこともある。

なかなか自分でプランを立てるまではいかず大抵はJRの駅ハイ(駅からハイキング)に参加することが多い。友人と、時には一人で

も出掛けていく。日に十二キロメートル以上歩いたときはかなり疲れるが、その疲労も心地よい。次の日に足が重いことはもうなくなった。ゴール後のビールも最高！

今後も健康維持の為、歩ける限りウォーキングを続けようと思っている。

このウォーキング・・・手軽で誰にでも出来るスポーツ、生活習慣病予防にも効果があるようで、年々参加者が増えてきている。

皆さんも今日から始めてみませんか？

.....

### 母の思ふ

〜ほこりじゃ死なない〜



S 47年卒  
佐々木郁子  
(旧姓 遠野)

もうすぐ母の一周忌を迎える。母は、長年の喫煙習慣から肺気腫になり、晩年は呼吸困難に苦しんで七十七歳で亡くなった。平均寿命は全うできなかった。

私たちは、仲のよい親子ではなかった。母はけちで自分勝手な人だったし、私も素直な孝行娘ではなかった。でも最後の二年間を一緒に暮らして、そこかしこに思い出ができてしまった。母と一緒に散歩した道、決まって一休みしたベンチ、散歩の後にコーヒーを飲んだカフェ。母のように杖をついた人を見かけると、はっとして振り返ることがある。母であるはずはないのだが。

母は、何か新しい物を買うかもらうかすると、古くなったりあきたりした物を私にくれた。私が結婚した時も子供を生んだ時も、子供の七五三も小学校の入学も、祝ってくれたことがなかった。「人間はほこりじゃ死なない」が口癖で、掃除が大嫌いだった。「わずらわしいことも大嫌い」と言い、私の相談を聞いてくれたこともなかった。祖母が生きていた時は「今時は子供に頼る時代じゃない」と言い、自分が老いた時は「何のために子供

を育てたと思っているの」と言っていた。でも、遺品を整理してみると、自分の物もたいしたものはない。自分に対してもお金を使えなかったのかと哀れに思えた。

母の四十九日が過ぎてからまもなく、母のベッドは処分して身の回りの物もあらかた片付けたのに、どうかするとまだひよこり出てくることもある。母が「直せば使える、値打ち物よ」と言ってくれた、切れたネックレスが文箱の隅に見つかったり、「しみがあふれど取れたらいい物なのよ」と言ってくれたブラウスがクローゼットの奥に見つかったりする。ほんとはろくな物がない。

なぜだろう、会いたいわけでもないのに、気がつくとも毎日のように母を思い出している。亡くなってもう一年になろうというのに、昨日のこのような気がする。

.....

### 全国出張旅行の楽しみ

〜先々の景観や食べ歩き〜



S 53年卒  
鳥居 順子

私の仕事は年中出張が多く、あらためて数えてみると、七年間で六十五カ所に行ったことになり、半分は関東近県ですが、ずいぶんいろいろな所に旅をさせていただきました。

海外は、中国の瀋陽のみですが、鍾乳洞の中を舟で巡る名所は、映画の中のような壮大な景色に圧倒されました。

北海道では、新緑の北大を散策してすがすがしい空気に思わず肺の掃除をした気分でした。盛岡は、啄木の足跡をたどり、遠い昔に思いをはせ、チーズのバツケージそのままの小岩井農場で、濃厚なアイスクリームに舌鼓しました。

金沢では、夜の城下町を隅から隅まで歩き、すっかり道も覚えて住んでいる気分を味わいました。鳥取砂丘や阿蘇山の雄大さは、一生忘れられないものであり、真夏の金比羅さま

にフラつきながらやつとで到達したこともありました。

那覇の海に沈みゆく大きな夕日に息を飲み京都の清水寺の夕日も負けず劣らずの美しさでした。

仙台の牛たん、高松の讃岐うどん、山陰の松葉がに、福岡のもつ鍋、名古屋コーチンなどおいしい地場ものも楽しみみのひとつです。えつ、これではまるで仕事してないみたいですが、そんなことはありません。

こういった楽しみを忘れず、ますます仕事をがんばっていききたいと思えます。

### 一筆啓上

おなつかしゅう

べいごごます

S 29年卒  
坂上慧三子  
(旧姓 西村エミ子)

久しぶりの学校だよりにびっくりいたしました。

大阪に来て45年。でも幼少の時の東京生活 関東弁は変わらず大阪で結構東京風を吹かしております。

古希を迎えて、金ない、ひまない、老いてないといきまき、勇氣、活気、元気をとりえとして舞踊の指導、古典折紙の指導、地元自治会長として走り回っています。

機会があれば同期会で親交を持ちたいですね。毎年3月に東京に出張指導しています。今年4月7日〜11日まで在京中です。6期の会員名簿がありましたらおしえて頂きたいです。

私の実家は北区田端2-11-5 西村直義(兄)です。小川会長の近くの様ですね。

又関西の八尾は私の町の隣です。れんらくがあれば行きましたのに。又これから都合をつけてお逢いしましょう。

6期(樺島克津子、石井寛子)さんとはいつも年一回はお逢いしてます。

皆様様ごきげんよろしく。

### 追悼文

切り絵作家



稲葉祐吉氏 逝く  
(相談役 69歳)

氏は、私の一級先輩だった。在学中での出会いは、写真部があり、その部長だった。S30年らしい経済情勢の続く中で、小遣いをやりくり工夫しながら、暗室内でのD、P、E作業について手ほどきを頂いた。

撮影会での人物像を四ツ切に仕上げるのに陰陽、強弱の手加減加工することなどを教えられた。また、バスケット部のB会をも立ち上げ、後輩達(S32年卒、奥村正明・櫻井弘清・曾根英昭・田口邦英・遠宮聡・新井田宏人)の面倒見が大変よかったそう。

卒業後、写真業として修学旅行に添乗したり、若狭会館結婚式場写真係をしていった。その後、荒川区内の印刷会社に写真製版係として就職した。この時に都電荒川線(三ノ輪橋〜早稲田)すべての駅を切り絵に集大成した。これが認められ蔵の街喜多方に日7年招かれ、3年近く街並みや風景作品に精魂を込め没頭し、大作を成し遂げた。

それらを読売新聞で紹介されたのをきっかけに数々テレビ放映がなされたが、特に日17年NHK「ちいさな旅」でも大きく紹介された。

晩年は、都交通局、郵便局の切手、カレンダーの原因を切った。惜しまれながら、69歳で世界を切った。本会に対しても多大な貢献を頂いたことを感謝し、ご冥福をお祈りいたします。

S 31年卒 小川 力洋 記

### 訃報

謹んで哀悼の意を表し、ご報告のありました方のみをお知らせ申し上げます。

- 水山 清 旧教諭 17.4.1 (享年77歳)
- 加藤 栄一 S 28卒 17.8.14 (享年71歳)
- 稲葉 祐吉 S 30卒 18.2.11 (享年69歳)
- 吉永(赤堀)篤子 S 36卒 17.2.26 (享年63歳)

## 総会・懇親会模様 17年4月24日(日)

(ご参加頂いたご来賓と会員諸氏)



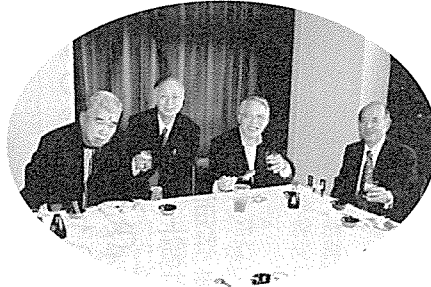
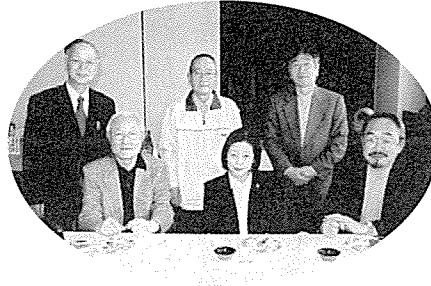
(左より)石井校長・工藤先生・池永元校長  
小川会長・川端相談役・橋本先生



素晴らしい演奏で楽しませて頂いた吹奏楽部  
太田先生、原田先生へ花束贈呈



フォークソングOB会の方々と共に  
大いにみんなで歌った。



## 高尾山ハイク

平成17年4月3日(日)



邪魔になる根を一夜で曲げたという蛸杉の前で

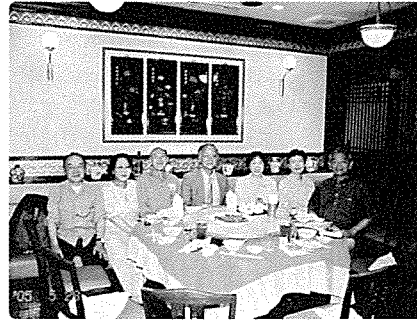


頂上まで頑張った面々

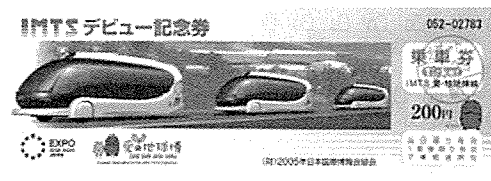


# 中京大会 平成17年 5月28日(土)

名古屋市中区 中国大飯店 新館にて



# 万博模様 平成17年 5月29日(日)

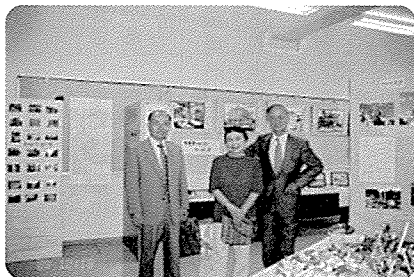


# 向陵祭 平成17年 9月24日(土)

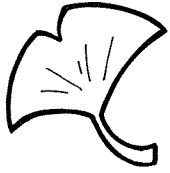
同窓会展示コーナー

俳句セミナー

懇親会参加の方々



# 寄付者・会費納入者一覧



平成17年度中に寄付金・年会費をお振込頂いた方々です。(敬称略)  
 尚、3,000以上の納入は寄付者扱いとして掲載させて頂きました。  
 ご協力誠にありがとうございました。有効に活用させていただきます。  
 尚、記載漏れがありましたらご連絡下さい。(締切18年2月20日)

### 寄付者名一覧

- ◆昭和25年卒 高平 香代(高平)
- ◆昭和26年卒 夢田喜久子(福田)
- ◆昭和27年卒 渡辺 信子(加藤)
- ◆昭和27年卒 浦野有久枝(加藤)
- 北澤むつみ(福垣)
- 五條 彰久
- 小松原錦子(吉沢)
- 佐藤 陽子
- 関岡 節子(東野)
- ◆昭和29年卒 中村香代子
- 橋田美智子(山口)
- 八木 俊道
- ◆昭和30年卒 稲葉 祐吉
- 荒井千代子(加藤)
- 緒方 素之
- 鈴木 幸
- 中村 素子(河野)
- 山田 順一
- ◆昭和31年卒 相川 勝弘
- 石山 登
- 小川 力洋
- 川端 春生(三橋)
- 伊勢 武治
- 大木 政恵(金子)
- 高尾 和子(杉本)
- 沼田 敏二
- 三田 昌男
- 山田 和子(釘宮)
- 山本 越子(福永)
- ◆昭和32年卒 伊奈 幸子(吉井)
- 櫻井 弘清
- ◆昭和34年卒

- 石山彼早子
- 田中ケイ子(宿輪)
- ◆昭和35年卒 五十嵐光俊
- 金子 三郎
- ◆昭和36年卒 伊藤 恒雄
- 岩井 和子(大野)
- 久保田昌雄
- 大宰 研二
- 検垣 安道
- 田中 正明
- ◆昭和37年卒 小川 浩美
- ◆昭和38年卒 井口 弘美(押野)
- 久野七三江(尾関)
- 広田 美子(植田)
- ◆昭和39年卒 庄司 和美(赤塚)
- ◆昭和40年卒 小山由記子(吉田)
- 杉浦 重治
- 島飼 重和
- ◆昭和41年卒 尾道 郁代(天橋)
- 長谷川三枝子(原)
- 原 淑子(近藤)
- 福島 宏紀
- 矢田 美子(高橋)
- ◆昭和42年卒 鈴木 裕司
- 飛田寿美子(森下)
- ◆昭和43年卒 井手 章子(丹沢)
- 榎本 裕子(高橋)
- 山邊 光久
- ◆昭和44年卒 川口由貴子(舟山)
- ◆昭和45年卒

- 小林 正夫
- 馬淵 努
- ◆昭和46年卒 笹山 幸子
- ◆昭和47年卒 尾形 聡
- 佐々木郁子(遠野)
- 玉置 順子(清水)
- 孕石 久枝(和田)
- ◆昭和48年卒 本多 和子(園分)
- ◆昭和52年卒 門馬 宏子
- ◆昭和54年卒 原 隆裕
- 松尾 佳子
- ◆昭和60年卒 宇佐美由美子(藤井)
- ◆平成4年卒 武居 徳文
- ◆平成13年卒 家村 幸一
- ◆平成14年卒 荒井 由美

### 会費納入者名一覧

- ◆旧教職員 板井 哲夫
- ◆昭和24年卒 井上 早苗(阿部)
- 黒坂 満子(山荷)
- 高木 芳江(高木)
- 針谷 数枝(坂本)
- 堀田 恵津(山田)
- ◆昭和25年卒 浅井 一江(熊沢)
- 昼間 敦子(関)
- 本多美代子(今井)
- 前田恵美子(田辺)
- ◆昭和26年卒
- 鎌田 美子(佐々木)
- 湯田 道子(堀口)
- ◆昭和27年卒 太田 きよ(太田)
- 幸田 俊子(岩田)
- 小林美恵子(俵)
- 酒井美代子
- 清水 時代(木之村)
- 高橋 清子
- 津雲 貞子(松田)
- 長谷川千代(中沢)
- 山田 正子
- ◆昭和28年卒 内山 昂子(豊田)
- 久保田慶子(佐々木)
- 黒川 滋洋
- 小林 怜子(足立)
- 坂川 康子
- 霜田 恒彰
- 竹内佐代子
- 中西多恵子(山田)
- 早船セツ子
- 堀 満彦
- ◆昭和29年卒 荒木 彩生(三井)
- 堀田 治重
- 岩井 澄子(小川)
- 岩木 信二
- 小熊 孝
- 葛西 宏治
- 金子 節子(渡辺)
- 兼崎 弘毅
- 北岡千枝子(松田)
- 佐武 和代(芝)
- 篠崎 健次
- 添田 紀江(河蓮)
- 早船マサ子
- 百野 啓介
- 星 直正
- 矢口 滋子(石塚)

- 山内 義雄
- ◆昭和30年卒 大島 久
- 下里 和子(下里)
- 棚瀬 妙子(佐藤)
- 長縄 信孝
- 服部 依子(星出)
- 広江 英一
- 福原 淑子(野口)
- 三浦 洋子
- 安河内恵美子(鹿見)
- 若木 康孝
- ◆昭和31年卒 赤松利久子(岩本)
- 大江 昭子(渡辺)
- 佐藤佐江子(森)
- 松寿 照子(亀井)
- 水津 信雄
- 鈴木やす代(瀧美)
- 中矢 崇之(麻藤)
- 姫野千代子(近藤)
- 平井 和子(清水)
- 深瀬 恒矣
- 堀 タツ子(堀)
- 堀江 幸子
- 村上 満男
- 山崎 久磨
- 吉田美千代(比企)
- ◆昭和32年卒 井野場育子(長谷川)
- 小西 圭子(城)
- 春川 園子(勢)
- 藤沢寿美子(竹内)
- ◆昭和33年卒 中河 健男
- ◆昭和34年卒 植山榮次郎
- 乙部たみ子(新名)
- 金井 昭利
- 金子 泰代(野中)

- 川合美津子(堀切)
- 郡司 茂代
- 国府田美恵子(島田)
- 笹沼 芳子(五十嵐)
- 立花 玲子(吉川)
- 田牧 紘一
- 藤田 皓一
- ◆昭和35年卒 森本 紘子(太田)
- 能州 慶次
- 北田 照子(大山)
- 湯浅美保子(奈良)
- 清水 幸明
- 永沢 治子(山本)
- 難波田久子(上井)
- 三浦みさ子(江島)
- ◆昭和36年卒 井沢 洋子(高橋)
- 石黒 寿子(八木)
- 海蓋 陸治
- 奥村 誠
- 塚原 元昭
- 寺尾ヒロミ
- 真塩 共栄
- 森 絢子(小沢)
- ◆昭和37年卒 浅原婦美子(野原)
- 阿部多恵子(随原)
- 板谷 勝
- 今村 春江(星)
- 小黒 由明
- 勝田久美子(戸渡)
- 河原 正史
- 北川 記方
- 佐藤 護武
- 佐藤 和子(渡辺)
- 鈴木多可子(浅賀)
- 高橋喜美子(片岡)
- 坪井 節子(青木)
- 宮下紀恵子
- 茂木 昭雄
- 山下 矩子

- ◆昭和38年卒 飯山千枝子(萩原)
- 桜井 昭子(筒山)
- 羽柴 美枝(五十嵐)
- 横田 肇子(師尾)
- ◆昭和39年卒 木内 明代(田口)
- 北田 照子(大山)
- 能州 慶次
- ◆昭和40年卒 湯浅美保子(奈良)
- ◆昭和41年卒 小野 紀子(長谷川)
- 青木 紀子(五十嵐)
- 稲葉 美子(田中)
- 井村 忠
- 杉原 和子(松村)
- 戸田 光子(土井)
- 西村 君枝(坪井)
- 溝口 進一
- 三谷アツ子(西)
- 山辺 恭司
- 吉田 恵子
- ◆昭和42年卒 池ノ上政雄
- 今井真知子(亀井)
- 佐古岡まきみ(知中)
- 巴田 京子
- 原 真理(根岸)
- 横山 正夫
- 渡辺 幸恵(岩永)
- ◆昭和43年卒 佐々木三都男
- 正田 京子(菅谷)
- 中川 敏彰
- 浜中 量子(山田)
- 松村由美子(高橋)
- 三好みち子(小林)
- ◆昭和44年卒

- 秋谷 実
- 飯野 正則
- 加藤 篤子(内藤)
- 松上 恵一
- ◆昭和45年卒 太田 克朗
- 三池美恵子(朝倉)
- ◆昭和46年卒 石井 洋子
- 新谷 勝造
- 宮浦美恵子(北上)
- ◆昭和47年卒 小野 節子(田上)
- 菊地 早苗(加藤)
- 栗原 素子(菰田)
- 丹下 薫
- 長谷川教子(高倉)
- 矢島 明子(鈴木)
- ◆昭和48年卒 柏 英明
- 小林 道子(近藤)
- 須賀 福子(牧野)
- ◆昭和49年卒 上野 一成
- 川島 清次
- 鈴木 紀安
- 三好 陽子
- 横山久美子
- ◆昭和50年卒 大西 絹子(田口)
- 永井すま子
- ◆昭和51年卒 高井恵里子(山内)
- ◆昭和53年卒 竹内 慶司
- 鳥居 順子
- ◆昭和54年卒 松本真理子
- ◆昭和56年卒 兼子まゆみ

- 武智 弘英
- ◆昭和57年卒 飯岡 明子
- ◆昭和58年卒 梓澤 秀昭
- 旗野 敏弘
- ◆昭和59年卒 木下 玲子(川井)
- 佐藤美穂子
- ◆昭和60年卒 張 家禎
- ◆昭和63年卒 富沢佳代子
- ◆平成5年卒 阿部 直子(雨宮)
- ◆平成9年卒 高橋 博史
- ◆平成10年卒 高橋 美法
- ◆平成14年卒 竹川 秀馬
- ◆平成15年卒 土方江梨香
- ◆平成16年卒 北川 貴進

**運営費にご協力をお願い**  
 会活動活性化に向け、ご寄付・年会費等のお振込み方、ご協力をお願い申し上げます。

合同旅行会 平成17年9月10日(土) 那須高雄温泉おおるり山荘

有志で茶臼岳登山



ホテル前で参加者全員集合

合同旅行として15名以上の参加がないと貸切の専用送迎車の出向とならないので、会長が係わりある団体等の仲間にお声掛けして、ご協力を仰ぎながら進められて来ております。結果、大勢となり廉価で愉快的な旅ができております。どうぞグループでのご参加も考えておりますので奮ってご参加下さいます様お願いいたします。

合同旅行会会員募集

日時 十八年九月九日(土) 十日(日)

場所 奥日光湯元温泉 おおるり山荘(予定)

参加費 一〇,〇〇〇円

集合 一泊四食付(但し要入 場料はオプション)

集合 JR田端駅前 午前七時四十五分 八時出発

送迎バス利用

先着順にて受付けます。 八月十五日までに会費を お振込下さい。

郵便振替番号 〇〇一〇一九一五三八五二三

振替者名 都立向丘高校同窓会

(通信欄に旅行代金と 記すこと)

※少人数の時は、池袋 発乗合バス利用に変更 となります。

やよい俳壇

楳 紀代選 (s31 佐藤令子 旧姓 安藤)

立ち飲み 昼酒きて桂郎忌

s27 森重竜朗(龍彦) 冬薔薇を引き寄せ棘にしがめらる

s27 小松原錦子(旧姓 吉沢) はしやく子に湯のかけおどし冬の風呂

s30 安河内恵美 蛇口開けどつと寒気の流れ出す

s31 梶田仍美(旧姓 坂口) 長さには巻かるる暮し利休の忌

s31 麻生やよひ (山本越子 旧姓 福永)



(役員諸氏) (前列左より)櫻井、川端、小川、尾道、三田 (後列左より)鳥居、石山、笹山、杉浦、山本

楳 紀代吟 春の雪ぶつかり合ひてともに落つ 野焼きの火風の速さに走りけり

昨年の向陵祭後開催されたホームカミングにて楳紀代氏の講演をいただきました。

在学時の思い出から、誰でもが言及する、あのころもつと勉強しておけばよかった、のお言葉はそのままそっくり今の私の心境です。俳句と出会い、自己表現の手段として、つと早く気づいていたら、としみじみ思います。

どんなに資産があろうと頭脳明晰だとしても、人間は若返ることはできません。自分が存在した証明がほしいとお思いでしたら、その手段として俳句は最適です。気が付いたときが始め時、貴方のご連絡お待ちしております。

連絡先 麻生 やよひ (山本越子 旧姓 福永) TEL / fax 031353217489 Email: elsu11ra@ra.diglobe.ne.jp

同窓会役員名簿

平成18年(2006)年2月20日現在

Table with 4 columns: 役職 (Position), 氏名 (旧姓) (Name (Surname)), 卒年 (Graduation Year), 住所 (Address), 電話番号 (Phone Number). Rows include 歴代校長, 名譽会長, 会長, 副会長, 会計, 書記, 会計監査, 幹事長, 西日本地区幹事, 事務局, 相談役.

〔事業報告〕平成16年度分

平成16年4月1日～平成17年3月31日

- I 役員会(幹事会)
H16年4月4日(日)
総会準備会及び会計監査会 9名参加
於 北区東田端地域振興室
H16年4月18日(日)
新幹事顔合せ会 4名参加
H16年5月26日(水)
総会反省慰労&西日本大会打合せ会 13名参加
於 東田端ナムニー
H16年7月14日(水)
ホームカミング打ち合わせ会 9名参加
於 北区東田端地域振興室
H16年9月20日(月)
ホームカミング最終打ち合わせ 11名参加
於 北区東田端地域振興室
H16年12月17日(金)
会報企画会議 10名参加
於 北区東田端地域振興室
H17年3月27日(日)
H17年卒業新幹事顔合せ会 16名参加
於 北区東田端地域振興室

- II 総会記念演奏会
・母校6階ホール
H16年4月25日(日)
①母校吹奏楽部
②ビッグコンボJASSグループ“プウアーゴッツ”160名ほどの卒業生と保護者、一般参加者が堪能した。

- III 総会・懇親会
・母校6階ホール
H16年4月25日(日)
事前の要予約振込みが少なく参加人数が把握できなかったが60名程度の準備をした。フォークソングOBの演奏および抽選会で賑わった。

- IV 研究活動
H16年6月26日(土)
やよい西日本大会開催
於 大阪八尾市 大黒殿
残念ながら参加者少人数だが今後に期待(会報15号11ページに記載)

- H16年9月24日(金)
向陵祭展示準備に4名参加
H16年9月25日26日(土)
向陵祭に参加。PTA会場に同窓会コーナーを設け、ベルー、ウズベキスタン訪問展開催。
担当、田中 正明相談役(S36年卒)
H16年9月26日(日)
ホームカミング会“化粧品改革をめざして”と題し研究会を行った。
講師 小沢玉枝氏(S55年卒)25名参加
於 B棟4階
H16年9月4、5日(土、日)
合同旅行開催 草津「おおり」へ。乗り合いバス利用(会報15号10ページに記載)

- V 会報関係
H16年11月19日(金)
会報企画会議 14名参加
於 北区東田端地域振興室
H17年2月中旬に発行に向けてスタート
H16年12月17日(金)
原稿持ち寄り会 10名参加
於 北区東田端地域振興室
H17年1月28日(金)
編集会議及び第一校正を行う 10名参加
於 北区東田端地域振興室
H17年2月23日(水)
二校正会 3名参加
於 小川事務所
H17年2月28日(月)
やよい15号発行 メール宅配便委託
H17年3月27日(日)
打ち上げ会 13名参加
於 北区東田端地域振興室

- VI 渉外関係
H16年4月7日(火)
母校入学式に小川会長列席
於 母校体育館
H16年5月21日(金)
PTA総会後の懇親会に小川会長列席
於 茗荷谷 ボンゲー
H16年9月25日(土)26日(日)
向陵祭に役員多数参観
於 母校
H17年3月11日(金)
母校卒業式に小川会長列席
於 母校体育館

- H17年3月11日(金)
母校PTA卒業を祝う会に小川会長出席
於 母校6階ホール

- VII 振興助成
☆S30年卒 同期会開催(182名)
呼びかけに対し三谷一郎幹事に助成
☆S31年卒 同期会開催(270名)
呼びかけに対し山本越子幹事に助成
☆S32年卒 D組クラス会開催(42名)
呼びかけに対し藤沢寿美子幹事に助成
☆クラブOB会 フォークソングOB会(75×2)
呼びかけに対し菅波利枝幹事に助成
☆クラブOB会 ラビ-部OB会(60名)
呼びかけに対し野田博之幹事に助成

- VIII 慶弔関係
S24年卒 美濃(河原)節子葬儀連絡
に対し弔電を打った。

〔決算報告〕
別紙決算報告のとおり

〔事業計画〕

- I 総会・懇親会の件 やよい15号参照
H17年4月24日(日)
II 全国大会・やよい会中京大会の件
やよい15号誌参照
H17年5月28日(土)
本年は主として中京地区(滋賀県6名、三重県5名、愛知県9名、静岡県32名)を対象に愛・地球博にも関連して多数の参加を期待。
III 向陵祭参加とホームカミングの件
H17年9月23日(金・祝日)24日(土)開催
H17年9月24日(土)16:00～17:00
やよい15号参照
セミナータイトル“俳句は頭の活性化”と題してセミナーを開催
講師「遠矢俳句会」主宰 檜 紀代(佐藤 子 旧姓安藤)S31年卒
場所 母校B棟4階視聴覚室
IV 同期会・クラス会等への通信費の助成
呼びかけ人数 1通につき ¥200
報告文を受け取り次第、代表幹事の指定口座宛振込み。会合の集合写真等を添えて小川会長当に速やかに郵送してください。
V 広報誌の発行と発送
(会員相互の意思の疎通を図るため)
平成18年2月に“やよい”16号発行(予定)の件
VI 年会費、寄付金ご協力をお願い
新卒者の入会金のほとんどは会報関係に充当されている。
年会費は一口1000円。運営費として2口程度のご協賛をお願いしたい。
年会費を含め、3000円以上の送金は寄付金扱いとする。
VII 次期定期総会の件
平成18年4月23日(日)開催の予定
アトラクション、懇親会についての提案を受付中。

平成16年度会計報告及び平成17年度予算案

都立 向丘高等学校同窓会
17年3月31日現在

Table with 3 columns: Category, 16年度決算 (金額), 17年度予算 (金額). Rows include Income (収入) and Expenses (支出) sections with various sub-items like membership fees, event fees, and administrative costs.

上記の通り収支報告申し上げます。

平成17年4月21日

同窓会会長 小川 力洋 ④ 長谷川三枝子 ④

会計 尾道 郁代 ④

監査の結果誤りの無いことを認めます。

平成17年4月4日

監査 石山彼早子 ④ 寺村 光司 ④

Portrait of Mei Tamaki (梅田博之) with text: 世相について思うこと. Article discussing the state of society, crime, and the role of parents and society in protecting children.

あとがき

世相について思うこと

S31卒 梅田博之